

●凧を揚げるとテロリスト?

パキスタンがゆれている。「対テロ」でも「反米デモ」でもなく「凧」をめぐる市民と当局の争いが原因である。きっかけは昨年高等裁判所が下した凧揚げ祭「バサント」(3月10～12日)の前後15日間を除き凧揚げを禁止する判決とそれを支持した最高裁の判定である。JKA通信は次のように伝える。『昨年12月9日、パキスタン・ラホール高等裁判所前で最高裁の判定に抗議し、愛好者の住民らがデモ行進し、警官隊が警棒をふるうなどして規制、数十人が負傷する騒ぎがあった。愛好者グループの弁護士はパキスタンには凧に関する法律がないとして高裁の判決は無効と主張している。』市民は高裁判決を大方無視して凧揚げに熱狂した。気後れした州政府は「バサント祭」以外でも解禁する決定を下した。

だが今年2月の新春凧揚げ大会で死亡事故が相次いだためラホール市内で凧揚げ禁止を求める集会やデモが相次いだ。更にいくつかの原理主義組織から「凧揚げは非イスラム的である」とする抗議運動が起こったため、3月9日、州政府は「バサント祭」での禁止を決定した。だが最高裁が判定したものを元に戻すことはできないので、今度は「反テロリスト法に抵触する」という苦しい理由で禁止した。さらに禁止を無視した市民587

名が逮捕へと続く。

反テロ法の効果は絶大でバサントでの死亡事故はゼロだったが、『禁止したり許可したり、またそれを禁止したりの朝令暮改に市民は嫌気がさしている。』とラホールの地元ブログは語る。それにしてもどうして凧揚げで多くの人が死ぬのか?理由は後述するが、似た事情は江戸時代の日本にもあった。実は、その江戸で凧揚げ禁止令が出た頃タコは生まれた。

●鳥賊(イカ)から凧(タコ)へ

～江戸の町民意識から生まれた?～

日本発の凧揚げ禁止令は1655(明暦元)年発布された。1583(天正11)年、徳川家康が江戸入城の頃、その荒涼たる原野に凧の姿はなかったはずだ。だが1603(慶長3)年の開都からおおよそ20年後の寛永(1624-43)の頃には江戸八百八町と称されるほど町は賑わい凧揚げも盛んだったと言う。原野からわずか40年であることを思えば、江戸の凧文化の素性は江戸市民が何所から移住してきたかを探ればわかるはずである。

それから2、30年後の1654年暮れ、どうやら子供が火のついた凧を江戸城御切手門(大奥への門)に落とした。徳川実記に「明暦元年正月二十日、此日児童紙鳶をもてあそぶ事を禁ぜらる」とある。凧を発見した御天守番は小判と服を褒美にもらう。続いて再び明暦二年正月二日のご法度が出た。

正宝録写本は、この時のご法度文に「子供たこのぼりを禁じる」とあることを伝える。

私たちはこの文献で「タコ」の言葉を始めて知る。二例とも市中往来の妨害、即ち警備上の問題がご禁制の理由だった。一方、関西では1723(享保8)年に初の禁令が下る。経済都市関西らしく豪華な凧の奢侈を戒めるものだった。この頃(寛文から明暦)生まれた「凧」文字は、子供向けの紙製ではなく、大人向けの豪華な「布」製を意味している。実は、イカがタコに変わった有力な定説はない。あえて言えば「江戸のフロンティアスピリット」と「関西への対抗心」が緋い交ぜになった江戸の町民意識と言えるのではないだろうか。つまり俗説だが「関西がイカなら江戸はタコ」という町民の心意気がタコ誕生の理由というわけである。

1675(延宝3)年、京の伊藤信徳は江戸に下り「物の名も蛸や故郷のいかのぼり」と詠んだ。そして関西のイカと江戸のタコの対立は明治まで続く。決着が付くのは「お正月にはタコ揚げて」の小学校唱歌が全国に普及し、タコが全国共通語の地位を獲得してからである。今でもイカと呼ぶ地方は多い。

●第三の凧

ところでなぜ凧揚げで人が死んだりするのか?往来妨害や奢侈とは次元が違う。ここでイカ、タコとは素性の異なる第三の凧が登場する。舞台はシルクロードの交差点でもある九州長崎に移る。アフガン、イスラエル、パキスタンと流れる天のシルクロードは長崎上空で一体となる。

【参考引用文献】

1. 「JKA通信Dec.12,2005」
2. 「Lahore Diary by koidelahre.exblog.jp」
3. 「凧大百科～日本の凧、世界の凧～」(比毛一朗著、美術出版社、1997)



『警官が来たぞ!それっランプやってることにしようぜ!という風景。怒った子どもたちに追い回される警官まで現れ、今年のバサントは政府の力不足を露呈した。役人が何と言おうと庶民パワーは凧満開とLahore Diaryは伝える。』

(Lahore Diary by koidelahre, 2006・3・13より)

●編集後記

「おむすびころりんすつとんとん」、懐かしい昔話の一節。小さなつづらから出てきた小判。春爛漫、外でお弁当を食べるにもいい季節。お弁当箱から出てくるのはお母さんが握ってくれたおむすび、おおか、鮭、昆布中身は色々あれど、何が出てくるか楽しみで食べたのは、子供のころの思い出。丸、三角、俵型、家庭によって形が違っているのも面白い。私は丸いおむすびがなぜ作れない、正確が角張ってるから?どうしても三角になってしまう。ご研究テーマをおにぎりにたとえてお話して下さった先生(おむすびは女性語という説もあるそうで…)、ぎゅっと詰まった中身にきっと未来が詰まっているのでしょね。(あした)

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-8755 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係
FAX: 03-3814-9152 E-mail: k-kunimoto@nts-book.co.jp

NTSニュース

2006年4月号(通巻86号)
2006年4月6日発行